

北見工業大学学報

第 272 号 (2015 年 11 月号)

目 次

入 学 式	平成 27 年度秋季大学院入学式を挙行……………	3
研 究 助 成	平成 27 年度科学研究費助成事業(追加採択)……………	4
	平成 27 年度共同研究の受入状況……………	5
	平成 27 年度受託研究の受入状況……………	6
	平成 27 年度奨学寄附金の受入状況……………	6
諸 報	簿記研修を実施……………	7
	美山小学校「科学・ものづくりクラブ」で先生役……………	8
	高大連携協力に関する協定に基づく事業を実施……………	9
	父母懇談会(秋季・札幌、東京)を開催……………	10
	自動車技術会 2015 年秋季大会産学ポスターセッションに出展……………	11
	社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催……………	12
	学生選書ツアーを実施……………	13
	研究活動の不正防止説明会を開催……………	14
	オホーツク圏の「食」について講演会を開催……………	15
	消防訓練を実施……………	16
	技術者交流フォーラム in 北見に参加……………	17
	小泉小科学の祭典に参加……………	18
	テレワーク推進事業シンポジウムを開催……………	19
青少年のための科学の祭典に参加……………	20	
メッセナゴヤ 2015 北海道ブースに出展……………	21	

	北海道技術・ビジネス交流会(ビジネス EXPO)に出展	22
	道内国立大学事務局長会議を開催	23
	電気・情報関係学会北海道支部連合大会を開催	24
	エネルギー環境関連施設見学会を実施	25
	学長との食事会を開催	26
	北見工業大学同窓会関東支部総会に出席	27
	永年勤務者表彰式を挙	28
	アグリビジネス創出フェア 2015・ アグリビジネス創出フェア in Hokkaido に出展	29
	研究機材寄贈に係る感謝状贈呈式を挙	30
	個人情報保護研修を開催	31
	北海道地区国立学校等安全管理協議会を開催	32
目 誌	10月・11月	33

= 入学式 =

平成 27 年度秋季大学院入学式を挙行

(総務課)

平成 27 年度秋季大学院入学式が、10 月 1 日（木）午前 10 時から、本学第 2 会議室で行われました。

高橋信夫学長から、留学生を含む 7 人の入学が許可された後、「視野を広げるために様々なことに挑戦し、大きく成長されるこ

とを願っています。」と激励の言葉がありました。

引き続き、総務課長から役職員等の紹介が行われました。

入学者は次のとおりです。

大学院博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
社会環境工学専攻	1
マテリアル工学専攻	2

大学院博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
生産基盤工学専攻	2
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	2



お祝いの言葉を述べる高橋学長



入学式終了後の集合写真

= 研究助成 =

平成27年度科学研究費助成事業（追加採択）

(研究協力課)

○基盤研究(C)一般

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付内定額 (単位：千円)	新規	継続
バイオ環境化学科	准教授	兼清 泰正	多色変化型糖センサーアレイの高機能化と多検体同時検出システムへの展開	4,420	○	

平成27年度共同研究の受入状況

平成27年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
社会環境工学科	助教	川尻 峻三	改良土の強度・変形特性に関する研究	公益財団法人鉄道総合技術研究所
社会環境工学科	准教授	中村 大	寒冷地における凍結深度の推定に対する地中レーダの有効性についての研究	越前屋試錐工業株式会社
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	連続繊維補強土の変形強度特性に及ぼす浸水条件と固化材添加の影響	日特建設株式会社
社会環境工学科	教授	川村 彰	高速道路における走行快適性に関する共同研究	株式会社高速道路総合技術研究所
電気電子工学科	助教	杉坂 純一郎	面発光レーザー向けフォトニッククリスタルについての研究	株式会社東芝 生産技術センター
情報システム工学科	准教授	前田 康成	エゾ鹿の有効活用および地産地消を目的としたレシピ開発	北見工業大学生生活協同組合
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	寒冷地に造成された土構造物の品質管理に対する表面波探査の適用性	北見土木技術協会
機械工学科	助教	石谷 博美	PCVガス除湿システム基礎研究 その3	株式会社ワークム北海道
機械工学科	教授	大橋 鉄也	先端半導体デバイスにおける応力・転位解析とデバイスシミュレーションとの連携解析	学校法人五島育英会東京都市大学

平成27年度累計84件

平成27年度受託研究の受入状況

平成27年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費
社会環境工学科	准教授	館山 一孝	Arcs 「北極域研究推進プロジェクト 北極気候・気象・海洋環境変動研究分野」 メニュー：ウ) 13 「北極域における氷河水床-海洋相互作用」のうち「グリーンランドにおける海氷と氷河の相互作用について」	国立大学法人北海道大学	円 2,900,000

平成27年度累計12件

平成27年度奨学寄附金の受入状況

平成27年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額
学部・大学院支援室 機器分析支援グループ	機器システム 係長	山田 洋文	研究費支援	山田 洋文	円 80,000
電気電子工学科	教授 准教授	田村 淳二 高橋 理音	出力変動電源の大量導入による系統影響評価と安定化技術に関する研究	北海道電力株式会社	1,000,000
	学長	高橋 信夫	学生に対する支援他	北見工業大学後援会	698,200
機械工学科	准教授	宮越 勝美	研究教育のため	宮越 勝美	150,000
マテリアル工学科	准教授	射水 雄三	工学研究のため	射水 雄三	300,000
社会環境工学科	助教	吉川 泰弘	水力発電所における流水雪検出技術に関する検討への指導	北海道電力株式会社	500,000
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	CNT修飾Si粒子の研究	戸田工業株式会社	500,000
社会環境工学科	准教授	中村 大	補強土壁の凍上・融解耐久性に関する実験研究のため	岡三リビング株式会社	250,000

平成27年度累計50件

= 諸報 =

簿記研修を実施

(財 務 課)

平成27年度国立大学法人北見工業大学簿記研修が、9月8日(火)から10月29日(木)の期間で実施されました。

この研修は、国立大学法人会計基準を理解するうえで最低限必要となる基礎的な簿記の知識を習得させることを目的としたも

のです。今回の簿記研修には、財務課を中心に8名が参加し、北見市内の専門学校講師による全15回の講義を受講しました。受講者は講義に熱心に耳を傾け、日商簿記検定3級の合格を目指して奮闘していました。



講義の様子

美山小学校「科学・ものづくりクラブ」で先生役

(社会連携推進センター)

本学では、年2回、美山小学校の「科学・ものづくりクラブ」の実験指導を行っています。オホーツク地域エネルギー環境教育(OE³)研究会の活動をきっかけに始まった取り組みで、マネジメント工学コースの学生が中心となって行っているものです。4年目を迎える今年は、9月10日(木)と11月26日(木)に、学生達が先生役を務める実験教室として開催しました。

身近な材料を用いて実験を行い、摩擦力や大気圧などの目に見えないものを感じる

ことに成功しました。また、牛乳パックの中に入れた電極に電気を流し、材料を加熱してパンを焼く実験も行い、担当の先生から「生徒が興味を持つ実験ばかりで助かっています」と好評価をいただきました。

この活動は、大学生ならではの地域貢献となるだけでなく、資料を集めたり小学生が興味をひくように工夫したりと、学生にとっても良い勉強の機会になっています。これからも継続して行っていきたいと考えています。



実験教室の様子

高大連携協力に関する協定に基づく事業を実施

(学生支援課)

北見工業大学と北海道遠軽高等学校との高大連携協力に関する協定に基づき、2つの事業を実施しました。

★研究室訪問

9月30日(水)、遠軽高校の生徒12人が本学社会環境工学科を訪問しました。事前学習として9月25日(金)に本学教員が遠軽高校に出向いており、今度は大学で実験を行うために訪問したものです。

高校生は、11時から16時まで、講義を受けたり実験を行ったりと、大学での学びを体験しました。大学見学も実施し、参加した高校生からは「実際に大学に触れることができ、今後の進路を考える上でとても参考になった」との感想が聞かれました。



★ピアサポート事業

10月10日(土)、本学学部学生・大学院生16名が遠軽高校を訪問し44名の生徒に対して数学の学習指導を行いました。4~6名の高校生の各グループに対し、2名の本学学生がつきっきりで指導するとともに、勉強方法や大学生活についての相談に対応するなどしました。

指導を受けた高校生は、「理解が深まった」「苦手を克服できた」と喜んでいました。また、参加した本学学生からは「自分にとっても復習になった」「教えることの難しさを知った」との声が聞かれ、本事業を通して、学習指導方法を体得することができたようでした。高校生にとっても本学学生にとっても、今後の自身の進路等を選択するうえで貴重な体験をすることができたものと思います。



父母懇談会（秋季・札幌、東京）を開催

（学生支援課）

例年開催している「父母懇談会（秋季・札幌、東京）」を、札幌会場は10月4日（日）に北海道大学学術交流会館で、東京会場は10月25日（日）に学術総合センターを会場としてそれぞれ実施しました。

札幌会場には96組の保護者が参加し、富田剛夫学生後援会会長から、後援会の活動状況等の報告がありました。続いて、田村淳二副学長から「本学の教育及び就職状況等」についての説明があり、様々な情報が保護者に提供されました。

東京会場には83組の保護者が参加し、全

体説明会において、田村副学長から札幌会場と同様の説明がありました。

札幌、東京いずれの会場とも個別面談を実施し、修学状況や就職等について保護者から質問が出され、本学教員と熱心にやりとりが交わされました。

参加した保護者からは「個別面談で子供がよく頑張っているということが目に浮かぶほど感じとれました」「御指導下さっている先生方のコメントを紹介いただき、非常に有り難かったです」等の声が寄せられました。



個別面談の様子



全体説明会の様子

自動車技術会 2015 年秋季大会産学ポスターセッションに出展

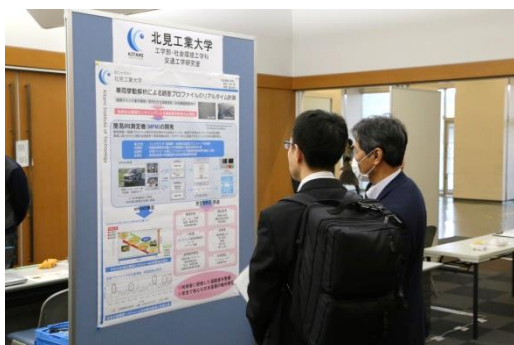
(社会連携推進センター)

10月14日(水)～16日(金)の3日間、西日本総合展示場を会場に、自動車技術会2015年秋季大会が開催されました。そのなかで「産学ポスターセッション～シーズとニーズの出会い～」が行われ、本学も技術広報の一環として参加しました。このポスターセッションには3日間を通して全国28大学が参加し、自動車技術に関する各大学での研究成果が発表されました。

本学からは、社会環境工学科の川村彰教

授と富山和也助教が取り組む、車両挙動解析による路面プロファイルのリアルタイム計測技術について紹介しました。出展ブースには絶え間なく来場があり、3日間で約100人もの方々が興味をお持ちになっていました。情報共有はもちろんのこと、実用化に向けた具体的な話もあがるなど、研究の発展に有意義な機会となりました。

研究成果の発表そして発展の場として、今後も活用していきたいと考えています。



出展の様子

社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催

(社会連携推進センター)

10月20日（火）、本学を会場として北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催しました。本会議は、オホーツク地域の経済発展及び地域活性化を目指したもので、周辺自治体・大学・公設試験場・包括連携協定締結機関等の関連部署担当者に「産学官連携推進員・協力員」を委嘱し、地域における産学官連携に関する議論・情報交換等を行っています。

今回は「地方版総合戦略（地方創生）への取組みと地域連携」をテーマとして、各自治体が取組み始めた地方創生計画につ

いてや、事前に本学関係者がオホーツク管内18市町村を訪問し得られた地域で抱えている課題等について、実際に担当者からの発言を交えながら意見交換を行いました。また、本学関係者から、地方創生の取り組みの中で、本学が持っている様々な資源を大いに活用して欲しいとの要望がありました。

今回は、本学関係者を含めて総勢47名が出席しました。今後も、各自治体関係者が一堂に会するこの会議を有効に活用し、地域の課題解決に向けて取り組んでいきたいと考えています。



挨拶する川村彰社会連携推進センター長



会議の様子

学生選書ツアーを実施

(情報図書課)

10月21日(水)、コーチャンフォー北見店において、平成27年度第2回「学生選書ツアー」を実施しました。本学学部学生及び大学院生4人が参加し、「大学生のうちに読んでおきたい本」「元気になる(なれそうな)本」「何度も読みたくなる本」のい

れかのテーマのもと、選書を行いました。

選ばれた合計18冊の本は、学生が選んだ理由などを記載したカードと一緒に、11月上旬から1月上旬まで図書館の展示コーナーにて展示を行っています。



選書の様子

研究活動の不正防止説明会を開催

(不正防止対策室)

10月22日(木)、今年2回目の「研究活動の不正防止説明会」を開催しました。

本説明会は、「北見工業大学における研究活動に係る不正行為に関する規程」及び「不正防止計画」に則りコンプライアンス教育として実施されたもので、今回は本年5月1日以降に採用された教職員(非常勤を含む)13人を対象として行われました。

説明会では、不正防止対策室副室長の清野千春研究協力課長から、法令遵守の必要性と教職員が守らねばならない学内のルー

ルなどについて説明がありました。また、教員や技術補佐員等には、別途、研究倫理教育としてCITI Japanのe-ラーニングを各自受講することについても説明がありました。

説明会には受講対象者13人全員が参加し、熱心に説明を聞いていました。新たに本学の教職員となった参加者にとって、不正が生じた場合の重大さについての認識や、不明なことの相談窓口等、学内組織を理解する貴重な機会となりました。



ミーティングルーム1での受講風景

オホーツク圏の「食」について講演会を開催

(社会連携推進センター)

本学社会連携推進センターは、北見市技能普及実行委員会に参画しています。この北見市技能普及実行委員会が主催、北見雇用創造協議会が協賛して、オホーツク圏の「食」について考える2件の講演会が開催されました。

10月26日(月)に開催された講演会「ピクルスの魅力と可能性-北見発技術による酢を用いて-」には、札幌のアトリエ hasebe 主宰の長谷部直美氏を講師にお招きしました。オホーツクビールの酢「オホーツクビール de 酢」を用いたピクルスのレシピについて、市民や調理師会関係者を対象にお話いただきました。また、オホーツクビールとオホーツク財団から、それぞれ「酢の紹介と今後の活かし方」「製造の原理やこれまでの活用事例」の紹介がありました。試作品を食べながらの講演会は、参加者に大変好評でした。

10月28日(水)には、講演会「『道の駅』の魅力は『食』の魅力」が開催されました。日本一の集客実績を持つ道の駅「田園プラザ川場」の永井彰一社長を講師にお招きし、道の駅「田園プラザ川場」の取り組み、特に食に関するプロデュースについて、地域の食材を活用したブランドの開発や技術の普及等に関する実績と事例を多く紹介いただきました。

今回の講演会で学んだことを、オホーツク地域における食と観光に関する職業人教育や産業人養成の促進、また、産学官連携による地場産品の高付加価値化に向けた取り組みの強化、そして地域活性化へと繋げていきたいと考えています。2つの講演会は、オホーツク圏の「食」を中心に据えた産業振興へのヒントを得る貴重な機会となりました。



指導する長谷部氏



講演する永井氏

消防訓練を実施

(施設課)

10月28日(水)、震度5強の地震による火災発生を想定した消防訓練を実施しました。

本学電気電子工学科2号棟の研究室を仮想火元として、第一発見者である学生の通報から始まり、学科教員による初期消火及び残留者の確認、職員による避難誘導及び負傷者の搬出を実施しました。

続いて、梯子車による避難訓練、屋内消火栓の取り扱い指導・放水訓練、水消火器を用いた消火器の取り扱い訓練を実施しま

した。

訓練には、電気電子工学科の学生・教員及び職員等、約60名が参加しました。訓練終了後には、立ち会った北見地区消防組合本部の署員から講評をいただきました。続いて、高橋信夫学長から、日常生活の中でも火災発生の危険がたくさんあるので、大学では実験を行う際や普段の生活では暖房を使用する際など気をつけるよう話があり、消防訓練は終了しました。



屋内消火栓の取り扱い訓練



消火器取り扱い訓練

技術者交流フォーラム in 北見に参加

(研究推進機構)

10月29日(木)、ホテル黒部で開催された「第24回技術者交流フォーラム in 北見」に、本学社会環境工学科2年次学生を中心とする本学学生及び教職員約100人が参加しました。

寒地土木研究所と本学は、連携・協力に関する協定を締結しています。本フォーラムは、この協定に基づく交流の一貫として開催されました。また、地域で求められる技術開発に関する情報交換、産学官の技術者交流及び連携等を図ることも本フォーラムの目的とされています。

今回は、「激甚化する雪氷災害の現状と課題」をテーマに開催されました。フォーラ

ムでは、本学名誉教授で北海道立オホーツク流氷科学センター所長の高橋修平氏の基調講演をはじめ、日本赤十字北海道看護大学災害対策教育センターの根本昌宏教授や、網走開発建設部の山梨高裕次長等から、地球規模の環境変動や暴風雪時の対応など雪氷災害と冬季防災について講演が行われました。

フォーラムには、本学関係者と建設業界・行政関係者ら合わせて約300人の参加がありました。参加者は、講演を通して地域に関わる課題やその対策について情報共有を図りました。



高橋氏の基調講演



会場の様子

小泉小科学の祭典に参加

(社会連携推進機構)

10月31日（土）、北見市立小泉小学校で開催された「小泉小科学の祭典」に、本学の教員及び学生が参加しました。この祭典は、同校のPTA事業の一環として企画されたものです。本学教員・学生の他、北海道教育大学釧路校の教員・学生、北海道ガス株式会社北見支店が参加協力し、第一部としてサイエンス屋台広場、第二部としてサイエンスショーが開催されました。

本学からは、サイエンス屋台広場に4個のブースを設置し、参加した親子に20分程度

の科学実験を体験してもらいました。会場には、200人を超える児童及び保護者が訪れ、限られた時間の中で貴重な体験を満喫していました。また、本学学生と北海道教育大学釧路校の学生交流の場ともなり、お互いにより刺激を受けたようです。

この祭典は、子どもたちの科学への興味を引き出すよい機会となりました。今後も、地域貢献の一環として、積極的に参加していく予定です。



会場の様子

テレワーク推進事業シンポジウムを開催

(社会連携推進機構)

11月2日(月)、本学において「北見発 日本が変わる最先端シンポジウム」を開催しました。本シンポジウムは、総務省「ふるさとテレワーク推進事業」という、地方でのオフィス機能の活用、地方への人の移動、人材確保等を目的とした実証事業の一環として行ったものです。今回は、テレワークというICT(情報通信技術)を活用した新しい働き方について、本学学生はもとより多くの方に知ってもらうために企画されました。

シンポジウムには、本学学生及び一般市民約250人が参加しました。前半は、株式会社Google for Work日本代表の阿部伸一氏と株式会社ワイズスタッフ代表取締役の田澤

由利氏から講演いただきました。後半には、パネルディスカッションとして、講演者お二人の他、企業から4名、そして本学の教員と学生も参加し、新たな働き方について討論しました。会場からも多くの質問があり、限られた時間の中ではありましたが、大変有意義なシンポジウムとなりました。

この「ふるさとテレワーク推進事業」は、本学はもちろん、北見市を中心に斜里町や複数の企業が参画しています。この実証事業の中で、地方に居ながら働けるテレワーク環境の充実に協力していきたいと考えています。今後、この事業が地方創生への足がかりになっていくことを期待しています。



講演する阿部氏



講演する田澤氏



パネルディスカッションの様子



会場の様子

青少年のための科学の祭典に参加

(社会連携推進機構)

11月3日(火)、北網圏北見文化センターにおいて「2015青少年のための科学の祭典北見大会」が開催され、本学からも科学屋台を出展しました。

この祭典は、青少年に科学のおもしろさや不思議さ、楽しさを体験してもらい、科学への興味関心を喚起することを目的に実施されているものです。19回目となる今年は、1,655人の来場者を記録しました。

オホーツク管内小中学校の理科教員を

はじめ、高校のサイエンスクラブやNPO法人、さらに道内各地から理科系の担当者が参加し、合計44の屋台が出展されました。本祭典への出展常連機関である本学からは、「極低温の体験!!」「振動で電気を作ろう!」の2ブースを出展しました。

会場は親子連れの来場者で大賑わいでした。今後もこのような地元のイベントに積極的に参加していきたいと思えます。



会場の様子

メッセナゴヤ 2015 北海道ブースに出展

(社会連携推進センター)

11月4日(水)～7日(土)の4日間、名古屋市国際展示場(ポートメッセなごや)を会場としたメッセナゴヤ 2015 が開催されました。本フェアは中京圏を中心とした自動車関連企業、名古屋地域のモノづくり企業が出展参加する日本最大級の異業種交流展示会です。製造業をはじめ、サービス、各種団体や情報通信等、幅広い分野の中小企業が参加し、今年は過去最多となる1300を超える企業・団体が出展しました。

中京圏市場に対し北海道内企業や学術機関の技術・製品等、高い技術のアピールを目的として設けられた北海道ブースでは、北海道の企業や学術機関が有する自動車関

連技術、医療、エネルギー、環境関連技術、寒冷地技術を活かした新エネルギー・省エネルギー化などの取り組みに焦点をあて、16の企業と本学を含む5つの大学が出展しました。本学からは、マテリアル工学科の阿部良夫教授が取り組む「スマートウィンドウ用の高耐久性水酸化物系エレクトロクロミック材料の開発」を紹介しました。

本フェア全体の来場者は約6万3千人にのぼり、北海道ブース、そして本学ブースにも多くの方に足を運んでいただきました。本学は中京圏出身の学生が多く、名古屋で行われた本フェアは、大学広報の面からも貴重な場となりました。

北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）に出展

（社会連携推進センター）

11月5日（木）・6日（金）、アクセスサッポロで開催されたビジネス EXPO「第29回北海道技術・ビジネス交流会」に、本学も出展しました。本イベントは、産学官の関係諸機関が協力して開催しているもので、例年2万人程の来場者を迎える北海道最大級の産業関連連携マッチングイベントです。

本学からは、「学術・試験研究機関展示ゾーン」にて、本学で行っている研究について、特に7研究ユニットの概要をパネルにまとめ、展示しました。また、公益財団法人北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）の基礎的・先導的研究への

支援事業ブースでは、本学機械工学科の星野洋平准教授が農業機械関連の研究結果を展示し、自ら研究シーズの説明を行いました。

本イベントには例年、出展者や来場者として本学出身の先輩達も数多く訪れます。仕事の面での興味だけでなく懐かしさに惹かれて立ち寄る等、先輩方の母校への愛着を垣間見ることもできました。就職等の情報収集にも大変役立つ良い機会であり、イベントで本学を紹介することの重要性を再確認する場となりました。



出展の様子



研究成果を展示する星野准教授

道内国立大学事務局長会議を開催

(総務課)

11月6日(金)、平成27年度道内国立大学事務局長会議を開催しました。同会議は、道内の7つの国立大学の事務局長が出席し、各大学が抱える管理・運営上の諸課題に関する意見交換・情報交換の場として毎年行われているもので、今年は本学が当番大学として開催しました。

会議では、茶臼豊事務局長の挨拶の後、第3期中期目標・中期計画の策定に向けた検

討状況について率直な協議が行われた他、地方創生における取組状況について活発な情報交換が行われました。

その後、文部科学省高等教育局国立大学法人支援課の佐藤昭博課長補佐から「国立大学法人等を巡る最近の動向について」と題した情報提供と意見交換が行われ、会議は盛会のうちに終了しました。



会議の様子



意見交換をする佐藤課長補佐

電気・情報関係学会北海道支部連合大会を開催

(電気電子工学科)

11月7日(土)・8日(日)、本学を会場として平成27年度電気・情報関係学会北海道支部連合大会が開催されました。

本学会は、電気学会、電子情報通信学会、照明学会、電気設備学会、映像情報メディア学会の各北海道支部及びIEEE札幌支部が主催し、毎年道内の電気・情報関係の学科を有する大学等を巡回して開催されています。今年も、本学電気電子工学科から11名の教員が実行委員として準備をし、北見工業大学の共催、北見市の後援で開催されました。

297名が参加し、9教室を使用して176件の

講演が行われました。このうち、53件が本学からの発表であり、存在感を示すことができました。また、本学共通講座の柳等准教授による「カーリングのおもしろいはなし」と題した特別講演も行われ、参加者に大変好評でした。

初日のセッション終了後には、オホーツクピアファクトリーにて、懇親会が開催されました。懇親会では、本大会実行委員長で北海道大学の小笠原悟司教授、北見市の渡部眞一副市長、本学の田村淳二理事、主催各学会支部の代表等からの挨拶もあり、70名の参加者がにぎやかに交流しました。

エネルギー環境関連施設見学会を実施

(社会連携推進機構)

11月7日(土)、エネルギー環境関連施設見学会を実施しました。本学が中心となって組織している「オホーツク地域エネルギー環境教育(OE³)研究会」が、オホーツク地域におけるエネルギー環境教育の普及及び身近な見学教材の発掘を目的として実施したものです。

午前は、北海道ガス株式会社北見支店のショールームにおいて、天然ガスの有効利用として開発された家庭用燃料電池システム(エネファーム)や自家発電システム(コレモ)についての説明を受けました。その後、同北見工場において液化天然ガス(LNG)のトレーラー車からLNGタンクへの注入作

業及び工場内の設備を見学しました。

午後は、野村興産株式会社イトムカ鉱業所において、使用済みの乾電池及び蛍光灯のリサイクル作業工程を見学しました。国内で唯一の水銀回収可能な企業として、環境に配慮した繊細な作業工程がとても印象的でした。

今回見学したいずれの施設も、団体で見学することが可能であり、副教材として十分資料になり得ると感じました。OE³研究会として、エネルギー環境教育の普及と啓蒙活動に大いに活用していきたいと考えています。



トレーラー車からLNGタンクへの注入作業



使用済み乾電池の焙焼炉(ロータリーキルン)

学長との食事会を開催

(総務課)

本学では、地域に根差した研究を推進しており、その一つとして、エゾシカ肉をはじめとした地産地消の研究を行っています。情報システム工学科の前田康成准教授と北見工業大学生生活協同組合（大学生協）が共同で行っているこの研究の成果として、11月9日（月）～13日（金）に大学生協食堂でエゾシカ肉を使った料理が提供されました。

13日には、大学生協食堂において、高橋信夫学長との食事会を開催しました。食事会では、大学生協 三上修一理事長からの挨拶に続き、前田准教授から、エゾシカ肉

の一般層向けの市場形成と地産地消レシピの普及により地域貢献につなげていきたいとの説明がありました。その後、大学生協学生委員も交え、実際にエゾシカ肉料理を食べながら懇談を行いました。

エゾシカ肉のキーマカレーは「思った以上に美味しい」と高橋学長に好評で、三上理事長や前田准教授も喜んでいました。

今後も大学生協と連携しながら研究を進め、本学での研究成果も積極的にアピールしていきたいと考えています。



挨拶する三上理事長



説明する前田准教授



「おいしい」と高橋学長



食事会の様子



エゾシカ肉のキーマカレー、
オホーツク汁、ミニサラダ

北見工業大学同窓会関東支部総会に出席

(社会連携推進センター)

11月14日(土)、銀座クラシックホールにおいて第21回北見工業大学同窓会関東支部総会が開催され、本学からは高橋信夫学長、機械工学科の石谷博美助教、マテリアル工学科の平賀啓二郎教授、射水雄三准教授、社会連携推進センターの有田敏彦教授が出席しました。

今年は58名の同窓生が出席し、年に一度の会合を楽しみながら、学生時代に戻ったかのように語り合っていました。高橋学長からは本学の歴史や現在の様子についてパワーポイントを用いた紹介があり、同窓生

からは「とても懐かしい」との声が上がりました。

また、同支部からは例年、本学で行われているロボコンの活動に対して大きな支援をいただいています。ロボコン大会の当日に応援に駆けつけてくださるばかりでなく、今年も寄付をいただきました。

同窓会からは、大学への支援としてインターシップ等、多様なご協力をいただいています。本総会は、同窓生との連携の大切さを改めて確認する場となりました。



挨拶をする高橋学長



参加した同窓生と記念撮影

永年勤務者表彰式を挙る

(総務課)

平成 27 年度国立大学法人北見工業大学
永年勤務者表彰式が 11 月 18 日 (水) に挙
行されました。

高橋信夫学長から被表彰者に対し、表彰

状の授与並びに記念品の贈呈が行われ、永
年にわたる本学への貢献に対する感謝とお
祝いの言葉が贈られました。

被表彰者は、次のとおりです。

北見工業大学永年勤務者表彰被表彰者 (50 音順)

30 年勤務者

氏名	所属学科等
齊藤敏浩	財務課

20 年勤務者

氏名	所属学科等
坂上寛敏	マテリアル工学科
高井和紀	機械工学科
本庄哲朗	財務課
松田剛	マテリアル工学科
村田美樹	マテリアル工学科
森本典宏	施設課
山本涉	総務課



永年勤務者表彰式被表彰者

アグリビジネス創出フェア 2015・

アグリビジネス創出フェア in Hokkaido に出展

(社会連携推進センター)

11月18日(水)～20日(金)に東京ビッグサイトで開催された「アグリビジネス創出フェア 2015」、27日(金)・28日(土)にサッポロファクトリーで開催された「アグリビジネス創出フェア in Hokkaido」の両フェアに出展しました。

本学は、両フェアに平成19年度より継続して出展しています。今回はバイオ環境化学科の佐藤利次准教授が行っている「ラッカーゼを含むシイタケ栽培廃液による環境浄化」の研究について展示・プレゼンテーションを行いました。佐藤准教授を中心

に活動している工農連携研究ユニットや、工農教育事業の成果品についても紹介を行いました。来場者の方からは「工業大学がなぜ食・農ですか？」との質問も出され、第1次産業と本学の関係、そして地域連携・貢献について説明を行いました。

本学の研究発表には多くの企業が興味を持ち、共同研究への発展へと繋がる可能性を秘めた問い合わせも相次ぎました。本フェアへの出展は、今後の研究発展が期待できるものとなりました。



成果を発表する佐藤先生



札幌での本学出展ブース

研究機材寄贈に係る感謝状贈呈式を挙

(施設課)

このたび、PVG Solutions株式会社並びに株式会社KITABAから、本学ハイブリッド植物実験棟における研究のため両面太陽光パネル一式を寄贈いただき、11月25日(水)、本学において両社への感謝状贈呈式を執り行いました。

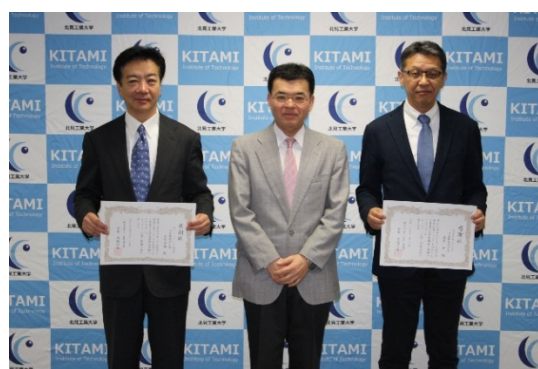
贈呈式では、PVG Solutions株式会社代表取締役社長の石川直揮氏、株式会社KITABA代表取締役社長の酒本宏氏にそれぞれ感謝状を贈呈した後、本学吉田孝理事から「寄

贈いただいた両面太陽光パネルはハイブリッド植物実験棟での実験を支える、クリーンなエネルギー源とし活用させていただきます」とお礼の言葉が述べられました。

贈呈式終了後には、両面太陽光パネルの設置されたハイブリッド植物実験棟を訪れ、実験棟で実施される研究活動について説明がありました。本学の研究発展のため、寄贈いただいた機材を大切に使用していきたいと思います。



感謝状を贈呈する吉田理事（左）



左から石川氏、吉田理事、酒本氏

個人情報保護研修を開催

(総務課)

11月25日(水)、本学において平成27年度国立大学法人北見工業大学個人情報保護研修を開催しました。この研修は、保有個人情報の取扱いについて理解を深め、個人情報の保護に関する意識の高揚を図るため、毎年実施しているものです。

今回は、NTTコムウェア株式会社北海道支店ソリューション営業部スペシャリストの上嶋裕文氏を講師にお招きし、「情報漏えい事例から学ぶ個人情報保護とマイナンバ

ー制度の概要」と題して、個人情報漏えい事例の具体的な紹介や解説に加え、通知が開始されたマイナンバーを個人として、そして大学としてどのように取り扱う必要があるのかについて、ユーモアを交えながら講演いただきました。

講演には62名の教職員が参加し、受講者は上嶋氏の講演に熱心に聞き入っていました。本学における個人情報保護に対する意識も高まり、有意義な研修となりました。



講師の上嶋氏



研修の様子

北海道地区国立学校等安全管理協議会を開催

(総務課)

平成27年度北海道地区国立学校等安全管理協議会が11月26日（木）、本学を当番校として開催されました。

本協議会は、北海道内の7つの国立大学、4つの国立工業高等専門学校、2つの国立青少年教育施設において安全衛生管理を担当する者が、職務上の諸問題について協議等を行うことにより、その安全衛生に関する能力の一層の向上を図り、もって職員の安全確保に寄与することを目的に毎年開催されています。

協議会では、茶島豊事務局長の挨拶の後、

「職場の安全衛生について」と題し、北海道安全衛生サービスセンターの池田和博所長から職場の災害リスク低減についてご講演いただきました。その後、北海道大学安全衛生本部の川上貴教准教授から「国立七大学安全衛生管理協議会」について報告があり、最後に「メンタルヘルスの基礎知識とストレスチェック制度について」と題し、北海道産業保健総合支援センターの井上蓉子産業保健相談員からストレスチェックの概要と進め方についてご講演いただき、協議会は盛会のうちに終了しました。



協議に先立ち挨拶する茶島事務局長



会議の風景

= 日誌 =

10 月

- 2日 インターンシップ事後研修会
- 4日 父母懇談会（札幌）
- 5日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 7日 社会連携推進センター運営会議、教務委員会
- 9日 発明審査委員会
- 10日 高大連携事業「ピアサポート」
- 14日 学術情報委員会
- 15日 教務委員会
- 16日 就職ガイダンス
- 20日 社会連携推進センター 産学連携推進員・協力
員合同会議
- 21日 教育研究評議会、編入学試験（第2次募集）出
願受付（～27日）、学生選書ツアー
- 22日 研究活動における不正防止説明会、公開講座
（～30日）、学生委員会
- 23日 女子学生のための就職セミナー
- 25日 父母懇談会（東京）
- 28日 消防訓練
- 29日 人を対象とする研究倫理審査委員会
- 30日 就職ガイダンス

11 月

- 2日 北海道オホーツクふるさとテレワーク推進事
業シンポジウム、推薦入試・帰国子女特別入
試出願受付（～9日）、オホーツク産学官融合
センター事務局会議
- 5日 教務委員会
- 6日 道内国立大学事務局長会議、就職ガイダンス
- 9日 社会連携推進センター運営会議
- 11日 推薦入学者選抜実施委員会、入学者選抜委員
会
- 12日 パソコン講習会（～12/3）
- 13日 学術情報委員会
- 17日 編入学試験（第2次募集）面接試験
- 18日 永年勤務者表彰式、教育研究評議会、遠軽高
校異校種連携事業
- 19日 学生委員会
- 20日 発明審査委員会、就職ガイダンス
- 24日 公開講座（～12/3）、推薦入学者選抜実施委員
会
- 25日 個人情報保護研修
- 26日 入学試験実施委員会
- 27日 推薦入試、帰国子女入試